

# 平成31年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される伝統ある進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次世代の社会を担う女性を育成する。 2 SSHの成果や国際交流事業などの取組を活かし、教育課程研究事業の推進により質の高い授業を行い、学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成するとともに、積極的に地域に貢献し信頼される学校づくりを行う。
------	---

出席者		
学校関係者	名	
生徒	名	

学校自己評価					学校関係者評価	
令和元年度目標					令和元年度評価 (月 日 現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	課題と改善策
1	全体的に生徒は、学習、部活動、学校行事、委員会・生徒会活動等に意欲的に取り組む姿勢がある。 学校の諸活動や、地域との連携における貢献活動等により、高い志や使命感を育成し、次世代のリーダーとしての素養を高める必要がある。	次世代のリーダーとしての素養向上	①学校行事、委員会・生徒会活動、部活動の推進 ・文化祭、体育祭等の行事に携わる委員会 ・教養、風紀等に関する各種委員会 ・部活動をとおした志の育成、リーダーとしての素養の育成 ②地域との連携 ・小中学校への学習支援 ・部活動における小中学校との連携 ・部活動や委員会等による地域への貢献 ・保育・福祉施設等でのボランティア ③国際交流の推進 ・ニュージーランド姉妹校への生徒派遣 ・グローバルリーダー育成事業等への派遣	①生徒が主体的に取り組み、学校行事や委員会活動・部活動を運営できたか。 リーダーの素地を育成できたか。 関東大会以上の大会等に10以上の部活動が出場・出品できたか。 ②連携事業により幅広く地域に貢献できたか。 生徒の社会性を育めたか。 生徒がリーダーシップを発揮できたか。 ③国際交流事業に参加した生徒のグローバル意識が高まったか。 報告会を実施し、全校生徒の意識変容が見られたか。		
2	これまで国や県の事業 (SSH、骨太リーダー育成等) を活用し、質の高い授業を実践する基盤を築いてきた。 これらの事業が終了となった今後は、その成果を引き継ぎ、新規事業である教育課程研究事業 (大学進学指導拠点校) の取組をとおして、学校を活性化し、これからの時代に求められる思考力・判断力・表現力等の向上に向けた授業改善を行う必要がある。	授業改善の推進	①新学習指導要領に対応した授業改善への継続的研究 ・研修会開催と参加、公開授業週間の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ②教育課程研究事業 ・進路指導拠点校間での連携による研究 ・新学習指導要領での教育課程の検討 ③探究の深化の推進 ・総合的な探究の時間の充実と内容の深化 ・探究活動の授業等とおした思考力・判断力・表現力等の育成	①外部の教員研修、先進校視察等に参加し、研修会を行い、校内における授業の工夫・改善ができたか。 ICT機器の活用は図れたか。 ②新教育課程の研究、編成は進んだか。 教員の意識向上が図れたか。 ③効果的な生徒の探究成果発表を実施することができたか。 生徒が主体的・対話的で深い学びを実践しているか。		
3	きめ細かな指導により、大学進学実績において、難関大学等、多くの合格者を輩出している。 今後も生徒一人一人の第一志望の実現に向けて、高大接続改革に対応した進路指導、学習指導の方法の工夫改善を行う必要がある。	進路指導の充実と進学実績の向上	①きめ細かな進路指導 ・一人一人に寄り添う進路相談の実施 ・長期休業と平日に実施する多彩な補習 ②高大接続改革等への対応策の検討 ③進路指導に係る最新の情報収集及び情報共有	①進路選択 (文理選択等) につながる講演会を実施できたか。 第1志望の進路実現 50%以上 現役合格目標：国公立大学60名 早慶上理ICUとG-MARCH 計100名 ②大学入試改革等への対応策の検討は進んだか。 ③高大接続改革研修会等に参加し情報共有し指導に活かされたか。		
4	生徒は自らを律し行動できる。 品格ある生徒の育成を継続させていくとともに、個々の生徒に寄り添うきめ細かな支援も必要となっている。 県北地域の少子化の影響による生徒募集も課題となりつつある。 地域の伝統ある女子校としての魅力を発信するなど、広報活動を一層充実させる必要がある。	生徒指導の充実	①組織的な整容指導と挨拶励行指導 ②教育相談の充実 ・一人一人に寄り添う教育相談の実施 ・専門機関と連携したきめ細かい個別指導	①全教職員、PTAの協力による組織的な指導ができたか。 ②校内支援委員会を中心に個別の生徒の課題解決に向けた支援ができたか。		
		広報活動の工夫改善	①地域・中学生に本校の魅力の発信 ・学校説明会や学校見学会の開催 ・中学校や塾等主催の説明会へ積極的参加 ②学校ホームページを活用した情報発信	①本校の魅力を十分発信し、入試倍率に反映できたか。 ②学校ホームページへのアクセス数が昨年以上に増えたか。(10%増)		